



2009年9月14日

VOL. 34

とっとり・グローバルウォッチ

とっとり貿易支援センター情報誌

海外チャレンジ企業

高品質な商品で中国市場にチャレンジ

最近の日本国内の家具産業は、輸入品の増加に伴う低価格化や、家具作りつけのマンション増加など様々な要因によって需用が低下している。このような状況を打破するため、今年6月、経済成長の続く中国で開催された大連国際家具展示会に出展し、中国国内での販路開拓にチャレンジした株式会社新木コーポレーション（東伯郡北栄町）代表取締役の新木雅章氏にお話を伺った。

■リスクはチャンス

株式会社新木コーポレーションが本展示会に出展した目的の一つに、日本から来場する大手小売店など新規取引先の獲得があった。自社のブースに来場いただけるようバイヤーへ事前に案内を出すなど、準備も万端だった。ところが全てが順調ではなかった。出展の直前、新型インフルエンザが世界中で猛威を振るい始め、その影響で日本からのバイヤー来場数が想定以上に少なくなってしまったのである。新木氏はタイミングの悪さを悔やむしかないと思ったが、出展の成果はそれなりにあったそうだ。まず、同社ブースを訪れた一般来場者の反応が良く、同社製品への関心が多く寄せられ日本の高品質な家具の需用があることを肌で感じることができた。また、来場されなかったバイヤーと後日、日本国内で商談したところ、大連での展示会出展の実績が認められ、良い方向に話が進んでいるというから「リスクをチャンスに変えた」と感じる。

■魅力的な中国マンション事情

日本の高品質な製品は、世界中で認められている。しかし質の高さを求めれば、必然的に価格も高くなる。同社の中国市場での狙いは富裕層。中国の富裕層はわずか数パーセントに過ぎないが、人口約13億人と分母がとてつもなく大きいので、十分ビジネスになる。同社も、これを狙っている。また、最近の中国の住宅環境を見てみると、都市部を始めマンションが次々と建設

されている。新木氏は、「中国のマンションは日本と違い、内装なしの状態販売されるのが一般的であるため、内装工事業者とのタイアップ販売ができれば、ビッグチャンスになりそうだ。」と語る。同社は平成13年に中国・青島に工場を設立し、そこで製造された製品は現在100%日本へ輸入しているが、今後は現地での販売も視野に入れている。

いま中国は、世界中の企業が注目しており、あらゆる物が次から次へと投入されている市場である。しかし、消費者のニーズを的確に捉え、日本が誇る“高品質”を武器にチャレンジすれば、どんな分野にもチャンスは多大に広がっているのではないだろうか。



ショールーム併設の新木コーポレーション外観

同社は、「とっとり県内企業海外チャレンジ支援事業補助金」（旅費や出展料等を一部負担）を活用して大連家具国際展示会に出展した。本補助金の詳細は、鳥取県産業振興機構海外支援グループ（TEL0857-52-6703）まで。

企業情報

株式会社新木コーポレーション
住所：東伯郡北栄町西園350-1
電話：0858-37-3221
FAX：0858-37-3225

目次

海外チャレンジ企業	P 1
現地発！ 台湾月刊レポート	P 2 27
最新の上海 ～現地レポート～	P 3 P 4 18
海外で頑張る日本企業 In 中国	P 5 P 6
鳥取県と吉林省の友好 交流15周年目の夏	P 6
お知らせ	P 7

世界の祝日～10月～

■米国	12日	コロンブス記念日
■中国	1～2日	国慶節
	3日	国慶節／中秋節
■香港	1日	国慶節
	3日	中秋節
	26日	重陽節
■韓国	3日	建国記念日
	2～4日	お盆（陰曆）
■タイ	23日	チュロ-ンコン大王祭

出所：ジェトロ通商弘報
「世界の祝祭日2009年版」から

現地発！台湾月刊レポート 27

台湾「八八水害」と景気動向

台湾は、8月8日の台風によって大きな被害を受けた。人的にも経済的にも甚大である。またこの水害によって、新たな政治問題も発生している。一方で台湾の景気は大陸との関係によって回復の兆しを見せている。

川辺のホテルが倒れるショッキングな映像を見た方も多と思う。「八八水災」と名づけられた台風による被害は大きい。9月5日現在の内政部発表によると身元確認された遺体は614名、身元不明死体の一部などは69個、失踪者は75人。総計758人の大災害となった。インフラとしては水道修理が769,159箇所、電力関係が1,595,419箇所、電話が114,990箇所、ガスは626箇所。ほぼ修復は、終わったようである。ただし国道は修復されたが、いまだ阿里山鉄道を含め多くの道が崩れ陸路で行けない場所も多い。なんと3メートル(3000mm)の雨が二日で降ったのだから。本災害による農林水産業の被害額は、16,468,632千台湾元(473億日本円)にも達している。このために台湾政府は、1,200億元を上限とする特別予算を成立させた。このため台湾政府の財政悪化が避けられず「A+」から「A」に格下げされる模様である。ちなみに日本は「AA」、中国は「A+」である。台湾の国家予算が4,481億元(1兆2875億日本円)であるから大変なことが分かる。緊縮財政を強いられることになる。

■災害を機に新たな政治問題が勃発

今回の災害では、発生段階で各国支援を断るなど、馬政権の対応の遅れが民衆の怒りを買った。民進党が地盤の場所で災害が起こったため、わざと支援を遅らせたのでは、などという噂も飛びかった。さらに民進党側も、ドライラマを呼ぶなど、馬政権に揺さぶりをかけた。馬政権もこういう民衆の怒り、そしてガス抜きのためにもドライラマ來台を断ることができずドライラマに政治運動をしないということを前提に、被害地回り説法をさせた。しかしこの動きに中国大陸側が黙っているはずもなく、9月5日台北開催の「デフリンピック(聴覚障害者のオリンピック)」に選手を入場させず、旗だけを行進させると言う相変わらずの嫌がらせをするなど、政治問題にまで発展している。ただし台湾人自身も、三分の一がドライラマ來台を大陸関係悪化を恐れて反対する等、日本人が思うイメージとは異なったものになっている。今年度末に選挙があるがどういふ影響を与えるかは不透明だ。



中元節の祈りの準備をしている様子

忽然と消失した小林村では、韓国救助隊から教えられた台湾軍兵士が命令で地面の臭いをかいで死体発見の作業をしている報道が繰り返

返され、まさに酸鼻に絶えないものであった。李登輝元総統が、森林祈念公園化するという構想を東京で発表した賛同する人も多い。募金活動も活発化しており、なんと131億台湾元に達したと報道されている。台湾内外の人の心の暖かさを感じる。

台湾では、鬼月に入った。霊界の扉が開き、ありとあらゆる悪霊や先祖、動物霊などが降りて来ている。9月2日の中元節は、これらすべての鬼にご飯を食べさせ暖かく迎えることで自身の家と会社の発展をお願いする行事だ。この日は、偽紙幣を燃やし霊に金を持たせてあげる習慣によって台湾中が煙で真っ白になった。私もくしゃみが止まらなくなり、帰るとシャツには煙と線香の匂いが染み付いていた。八八水害では、犬も例外ではなく数百匹が溺死したと思われ、死んだわんちゃん(飼主)たちが集まり中元のお参りをし、愛犬家の涙を誘っていた。今年はとても悲しい重い中元となっている。

■中国大陸との関係が景気回復の鍵

一方、明るいニュースとしては、台湾景気が上昇している。台湾經濟部貿易局統計によると、6月の対中国大陸への輸出が、50億米ドルに達し、金融危機が始まった8ヶ月で最高の金額に達した、と発表した。輸出に関しては、消費性電子産品や台湾電子部品関係、中でも液晶面板などが増加している。大陸との関係が、景気回復の鍵となっていることが分かる。ただし前年比では、三割ほど足りない。また輸入についても回復が見えないものの単月では新高値をつけている。輸入で大きく目立ったものは、「HS71:真珠・貴石・貴金属等」が、昨年同期比で大逆成長の206.7%をつけた。私が思うにインフレ、恐慌対策として台湾人が、身を護る財産として買い込んだのではないかと睨んでいる。皆様も参考にされたい。

閑話休題。皆さんは「Google street」サービスをご存知だろうか。台北でもサービスが始まった。日本ではプライバシー侵害問題、被差別問題にまで発展している。しかし考えようによっては、観光旅行の予習、取引相手



の与信活動、商談先リストのマーケティングセールスツールなど様々に活用できる。皆様も一度、ご覧になってほしい。『<http://maps.google.com/>』にて弊社住所を入れると「台湾台北市中山區長春路172號」左のような写真が出てくるのでび

っくり。弊社に来るときの参考にしてほしい。

《参考》

- ・内政部八八水災関連ニュース
http://www.moi.gov.tw/news.aspx?type_code=08
- ・報道
<http://news.sina.com.hk/cgi-bin/nw/show.cgi/9/1/1/1238224/1.html>

最新上海 ～現地レポート～ 18

日本食材と中国の各都市③

『日本食材と中国の各都市』と題して2号連続で紹介してきたが、今シリーズ最後として今回は北京市と成都市を紹介しようと思う。

■北京について

一北京市基本概要一

(2007年、出所：北京市統計局、上海市統計局ほか)

	面積(km ²)	人口(万人)		GDP		可処分収入(元/年)※3	
		常住人口※1	戸籍人口※2	全体(億元)	一人当り(元)	都市部	農村部※4
北京市	16,410.54	1,633.00	1,213.30	9,353.30	58,204.00	21,989.00	9,559.00
上海市	6,340.50	1,858.08	1,378.86	12,188.85	66,367.00	23,623.00	10,222.00

※1 《戸籍登記条例》に基づき、居住地として公安戸籍管理機関に登録している人口。

※2 ある地域に一定期間(6ヶ月以上)住んでいる人口(戸籍登録地域から6ヶ月以上離れていればその地域の常住人口とは見なさない)。

※3 税金や社会保険などを差し引いた金額。

※4 北京市の場合は、純収入。

北京は言わずと知れた中国の首都であり、新しい記憶で言えば昨年北京オリンピックが開催されている。北京オリンピック開催前は交通インフラはもちろんのこと、海外から渡航者へのサービスを拡充するため、飲食店などは中国語とあわせ英語のメニューを用意したり、禁煙/喫煙エリアを用意したりと充実させていった。1年以上過ぎた今はすでに落ち着きを取り戻しており、街の

様子はオリンピック開催以前に戻ったとの話も聞かれる。しかし北京に住む日本人にとっては住みやすい街になっていることは確かである。北京市内の日系ショッピングセンターはイトーヨーカ堂が9店舗をはじめ、日本ブランドの食材を容易に手に入れることができる。

■成都について

一成都市基本概要一

(2007年、出所：成都市統計局、上海市統計局ほか)

	面積(km ²)	人口(万人)		GDP		可処分収入(元/年)※3	
		常住人口※1	戸籍人口※2	全体(億元)	一人当り(元)	都市部	農村部※4
成都市	12,390.00	1,257.90	1,112.30	3,324.35	26,527.00	14,849.00	5,642.30
上海市	6,340.50	1,858.08	1,378.86	12,188.85	66,367.00	23,623.00	10,222.00

※1 《戸籍登記条例》に基づき、居住地として公安戸籍管理機関に登録している人口。

※2 ある地域に一定期間(6ヶ月以上)住んでいる人口(戸籍登録地域から6ヶ月以上離れていればその地域の常住人口とは見なさない)。

※3 税金や社会保険などを差し引いた金額。

※4 成都市の場合は、純収入。

本誌の読者にも愛読書として三国志を挙げられる方もいるのではないだろうか。四川省の省都でもあり蜀の都だった成都市は、昨年5月発生した四川大地震で大きな被害を受けた地域である。地震のない中国と言われていた中での大地震で、成都市から2,400km以上離れた上海でさえも、オフィスビルが大きく揺れ、高層ビルで働く多数のサラリーマンたちが慌てて表玄関に逃げ出すような状況だった。多くの犠牲者を出した四川省であったが現在も懸命な復興作業を続けている。

中国投資を考える上で、中心地域となるのは上海などの沿岸部だが、中国政府の政策は、内陸部への投資を促すものが多い。実際沿岸都市部より労働賃金は安く、都市部を追い出された感のある労働集約型の業種にとっては、物流面などの負担を考えても有意義な地域である。

内陸部の成都市にも日系企業は進出している。上海に比べると違いを感じる部分もあると思うが、イトーヨーカ堂や伊勢丹などの日系デパートがあり、こちらもやはり住みやすい地域になっているようだ。

<次頁へ続く>

■二都市の日本食材等の動向について

北京市、成都市に駐在するお二方に話を伺っている。北京市に駐在しているH氏は2008年初めから北京へ。成都に駐在している駐在員太太（奥様）のSさんは2008年半ばより成都にお住まい。どちらも上海での生活も長く、中国の現状について詳しい方々である。日本食材購入や日本料理店、現地中国人などについて質問した。

⇒質問内容

1. 日本食材購入について

	購入場所	販売商品の内容	現地人の日本食材について	現地人の外資系スーパー利用について
北京市	日本人居住区には、イトーヨーカ堂、カルフル、ウォルマートなど外資系スーパーも含め、購入できる場所がそろっている。日本人マンション等から郊外型のスーパーマーケットへの送迎バスもある。	日本からの輸入品も少なくないが、最近では現地生産された海外ブランド商品も目立つようになってきている。	詳細は分からないが、購入品の内訳を見ると日本食材30%、中国食材50%、そのほかの海外食材20%。	上海と比較すると、中国人の利用が多いように思う。行く機会の多いイトーヨーカ堂で日本人を見かけたのは2度だけ。
成都市	比較的品物が揃っている伊勢丹地下を利用することがほとんど。上海で購入できるような生鮮食品はない。日本人が好む魚類はなく、あってもマグロやサーモン程度。	日本食材と言えるのは殆どが輸入だと思われる。	見かけることは多くないが、イトーヨーカ堂では寿司や鰻丼など惣菜の人気が高いよう。	かなりの賑わいを見せている。

2. 日本料理店について

	日本料理店の店舗数	現地人の日本料理店の利用について	現地人の外国食文化の意識について
北京市	上海よりは少ないが、名前を挙げられる程度の日本料理店はある。北京市内もいくつかのエリアに分かれる。上海と異なるのはローカル色豊かなエリアと外国人エリアに分かれるため、日本料理店が至る所に存在するようではないようだ。	店舗にもよるが、中国人率は高いと思われる。いつも利用する寿司屋などは中国人のほうが多い。	抵抗は少ないと思う。特に80後（80年代生まれ）世代は比較的何でも口にする。ただし「老北京」という言葉があるように古き良き時代を好む傾向もあるため、一部の富裕層を除けば異文化に触れる機会は少ないのではないだろうか。
成都市	不確定だが、日本人の間でのリピーター率が多いのは20軒位。全体で40～50軒はあるのでは？	多いと思う。よく利用する日本料理店でも中国人利用者の比率は50%を超えているよう。	欧州系、東南アジア系のレストランも多い。日本料理を含め抵抗は少ないと思う。ただ日本料理に対しては味覚面で物足りない、と言う意見をよく聞く。

上記回答からもわかるように、日本の食材を受け入れる環境が整っていることがわかる。日本でも健康ブームであるように、肥満や糖尿病の多い中国でも同じように健康を意識する人も多い。また、ダイエット・体型を気にする若者も少なくない。この部分に焦点を当てれば、日本の食材は油分の多い中華料理よりもずっと健康的に感じるのは私だけだろうか。中国の食文化が少しずつ変化を見せ始めているこの時代、日本の食品企業にとっては活路となるのではないだろうか。



商業ビルがひしめく国貿付近(北京)



緑多い朝陽公園の横(北京)

【株式会社チャイナワーク 孫】

海外で頑張る日本企業 in 中国

長春市今泉宮城野納豆有限公司 今泉光俊董事長インタビュー

日本の伝統食である納豆は、長春市の日本食材販売店でも売られている。「今泉納豆」「燕京納豆」「お城納豆」などなど、1個4元、3個セットで10元くらいである。日本の納豆と違うのは、こちらの納豆は冷凍状態で売られているため、自然解凍してから食べるということだ。私もよく買って食べているが、味は日本のものほとんど変わらないと思う。（当然ものによって好みはあるが。）

このたび、長春市に隣接する徳恵市で納豆を作っておられる今泉光俊さんにお話を伺ったのでご紹介する。



今泉宮城野納豆有限公司

董事長 今泉光俊氏（写真は今泉社長と奥様）

2006年6月より中国吉林省徳恵市における唯一の日本人夫婦として納豆作りを開始。中国に来るまで本格的な納豆作りは未経験であったが、中国人の協力を得ながら現在は月に平均3,000個を販売するまでに成長。

■まず事業内容を教えてください。

夫婦2人と合資相手である共同経営者、現地従業員の計4名で納豆を作って販売しています。共同経営者が法律関係などの諸手続きをしてくれ、実際に納豆を作っているのは3名の小さな会社です。商品は徳恵市だけではなく、東北三省に出荷しています。先日はハルピンで1万個受注しました。

タレは一般的な醤油ベースのタレとカラシのセットと中国人に人気がある唐辛子とのセットの2種類を作っています。納豆菌は日本の宮城野納豆から購入して中国に持ってきています。

■いつから始められたのですか？

中国、徳恵市に来たのは2006年の3月で、実際に納豆を作り始めたのは同年6月からです。会社の設立から工場の生産許可までわずか3ヶ月でできたのですが、こんなに早く手続きができるとは正直思っていませんでした。

納豆作りは中国に来るまで本格的にしたことがありませんでした。納豆作りの基本は、来る前（2005年11月～翌年3月）に宮城野納豆さんでいろいろと勉強させていただきました。本当に感謝しています。

■中国で納豆を作ろうと思われたきっかけは何ですか？

以前、仙台で居酒屋を経営していた頃、バイトの中国人から「一度中国に遊びに来てください」と誘われ、お盆休みにハルピンを訪ねました。その時すごく感激しまして、「やはり中国いいね～」と。東京五輪当時の、建設ラッシュの頃の賑やかさを思い出しました。中国にずっと居たかったのですが、日本にお店もありましたので一旦帰国しました。

まずは中国に住みたいという気持ちがあって、でも、

中国に住むには何かやらないとビザがとれない。そんな時、妻が「お父さん、納豆でも作りましょうよ」と言ってくれて。私はそれまで納豆なんて食べるだけで作ったことはなかったのですが、妻は小さい頃、田舎で作っていたようで。ただ、その時は会社を作って売るというわけではなく、中国の方に私たちが作った納豆を食べていただくという程度の軽い気持ちでした。とりあえず健康にいい納豆でも作ってみて、もし中国人の反応が悪ければ、その時に何をやるのかまた考えようと思っていました。

■納豆は中国でどういう反応でしたか？

周りの人はみんな納豆を知りませんでしたし、はじめは注文も少なかったです。中国人は粘るものが嫌いだし、匂いがキツイものもダメなので、だから納豆はダメでした。ですが、徐々に口コミで広がってきて、今では吉林・ハルピンなどに代理商がいます。

朝鮮族はもともと納豆を食べる習慣があるようで、延吉（吉林省にある朝鮮族自治州の州都）とかでは納豆はよく売られています。延吉には納豆工場もあります。

■中国で起業するにあたり苦労されたことは何ですか？

特にありません。共同経営者や徳恵市経済局の方々がよくしてくれましたので。

■そもそも徳恵市を選ばれた理由は何ですか？

中国で起業するにあたって重要なことは中国人の協力者です。日本人一人ではまず無理。私の場合、ハルピンから戻ってから、仙台にいた中国人の知人に「中国で納豆を作りたい」と相談した時に、現在の共同経営者を紹介いただきました。彼が徳恵市の人であり仙台で会ってお話したときに、徳恵市で納豆を作ることを決めました。2005年11月頃のことです。

<次頁へ続く>

実際、徳恵市政府は、円滑に手続きを進めてくれました。徳恵市としては、例えわずかでも外資の導入が欲しかったのでしょうか。もしくは、日中合資会社を誘致したという実績でしょうか。徳恵市には合資相手を探している中国企業がたくさんありますが、単に日中合資という名目が欲しいところもあるようで、既に納豆を作っている私たちも今でも声をかけられることがあります。ちなみに、徳恵市にいる日本人は私たち夫婦二人だけです(笑)。

■ それでは、仕事の中で苦労された(されている)ことは何ですか？

原材料の大豆が一番大変でした。納豆作りに適した大豆は黒土で栽培されますが、吉林省は赤土のため、油を絞るのに適した大豆はできますが納豆作りには合いません。はじめはそれを知らないで作ってしまい、失敗したこともありました。試行錯誤の末、現在では、黒竜江省か延吉周辺の黒土で採れる大豆を仕入れて作っています。

もう一つが流通です。納豆を作った後、代理商までの輸送手段がネックです。こちらの納豆は冷凍保存して販売するので、品質を守るためには冷凍車などの輸送手段が必要となりますが、なかなか難しいのが現状です。

■ 現在の生産状況はどんな感じですか？

以前は注文を受けてから作っていましたが、最近は急な注文等に対応できるように、常時500個くらい(10~20箱)は在庫があるように作っています。

販売の方は、月に平均3000個くらいでしょうか。3000個販売しても黒字とは言えませんが経費的にはトントンくらいなので、ちょっとずつは軌道に乗ってきていることになりませんか。年金があれば中国で暮らせますので、商売というよりセカンドライフです(笑)。日本のメーカーだと1日1万個くらい生産していると思います。

■ やりがいや今後の目標などがあれば教えていただけませんか？

美味しい納豆を作ること。そして、私たちが作った納豆を多くの人に知ってもらい、その輪が広がっていることが喜びです。新しい発酵機を導入し、より美味しいものをより多くの人に食べていただくのが当面の目標でしょうか。

■ 最後に中国進出等を検討している鳥取県の皆様にメッセージをお願いします。

中国でビジネスをする際には、信用できる中国人のパートナーが必要だと思います。中国人との付き合い方では、ある程度相手を信じて任せることも必要です。当然「ダメなことはダメとハッキリ言う」ことも必要ですが頭から否定するのではなく「中国ではやりかたが違う」ということを知るのも重要です。私も中国流にはなかなか慣れませんでした(笑)

また、中国では、人のつながりが重要です。どんなつながりからチャンスが巡ってくるかわかりません。中国で短気は禁物です。納豆のように粘り強く、地道にいい仕事をしていれば、その中での人とのつながりが生きてくるものと思っています。

徳恵市に来られる際は、ぜひご連絡下さい。



今泉宮城野納豆の商品

《徳恵市の概略(参照：徳恵市人民政府HP)》

面積3,435km²、総人口95万人(うち農村人口75万人)の県級市(地方の町レベル)。長春ーハルビンの途中に位置する。トウモロコシ、大豆、水稲などの産地。

【鳥取県文化観光局交流推進課 中国吉林省派遣 金田】

鳥取県と吉林省の友好交流15周年目の夏

鳥取県と中国吉林省が友好交流をはじめ、今年で15年の節目を迎えた。(吉林省は黒龍省、韓国江原道とも今年で15周年になる。)この夏、友好交流15周年を記念して、吉林省長春市では2つのイベントが開催された。まず、7月4、5の2日間をかけて「日中韓国際文化美食祭」が、8月13、14には「日中韓青少年卓球大会」が開催された。

「日中韓国際文化美食祭」は、交流地域の文化や料理を吉林省のより多くの方々に知ってもらうことを目的として開催され、会場内には長春市内にある日中韓の各料理店や各交流地域のブースが並び、ステージ上では各地域の伝統芸能の公演などが行われた。鳥取県もブースを出展し、鳥取カレーの試食や民芸品などの展示を行って鳥取県をPRするとともに、ステージ上では倉吉農業高校の生徒が迫力のある和太鼓を演奏して、会場を大いに盛り上げた。鳥取県のブースには、日本へ行ったことがある人や現在日本語を勉強中の学生、自分は日本語が話

せないけど子供が日本で働いている人など、数多くの日本に関心のある方々が来られた。観光パンフレットを見ながら「今度日本に行く時には、ぜひ鳥取県にも行ってみたい」との言葉も。通りすがりの中国人の皆さんも鳥取の工芸品に興味をもたれたようで「なぜ売ってないんだ、売ってくれ」とか「長春のどこで売っているのか」などの要望・質問が後を絶たなかった。ただ、値段を言うと「高すぎる!買えない」と驚かれる方が多かったのも事実である。鳥取県に対する認知度は、私が思っていた以上にまだまだ低いと言わざるを得ないが、今回の祭典を通して「鳥取県は吉林省が15年も前から友好交流している地域だ」という事実を来場した多くの中国人が知ったのではないだろうか。

10月に鳥取県で開催される「日本のまつり」には吉林省の芸能団も出演する。鳥取県の皆様も、ぜひこの機会に交流地域の伝統芸能をご覧になっていただきたい。

【鳥取県文化観光局交流推進課 中国吉林省派遣 金田】

お知らせ

食品輸出大商談会 -米国(NY)向け-について

欧米の日本食ブームやアジア諸国の購買力向上を背景に、昨年の日本からの農林水産物の輸出は4,300億円を超えました。本セミナー及び商談会は、バイヤーから現地の生の声を聞き、ビジネスを拡大するチャンスです。米国への販路開拓をお考えの皆様はぜひご参加ください。

日時：2009年10月5日
9：30～18：00
場所：松江東急イン 2階 オーク
主催、共催：ジェットロ松江、鳥取、
広島、岡山、山口
参加費：無料
申込締切：
セミナー及びネットワーク 9月25日
商談会 9月14日
申込、問合せ：
ジェットロ鳥取（担当：蒲田）
TEL 0857-52-4335

<ジェットロ鳥取からのお知らせ>

米国ニューヨーク食品見本市 出展者募集について

ジェットロは、農林水産省の受託事業として、米国・ニューヨークで開催される食品見本市International Restaurant and Foodservice Show of New York2010に「日本政府ゾーン」を設置・運営します。皆様のご参加をお待ちしています。

【見本市概要】
会期：2010年2月28日～3月2日
開催地：米国ニューヨーク
会場：Jacob K Javits Convention Center
【日本政府ゾーン概要】
募集規模：26社・団体
申込締切：9月24日
申込、問合せ：
ジェットロ農林水産事業課
（担当：築館、田原）
TEL 03-3582-5546

ロシア・韓国金融市場セミナー 開催について

ロシア・韓国の金融制度にテーマを絞り、両国の金融市場が近年どのように変化してきたか、貿易代金の決済方法、有力な地場銀行の紹介など、ビジネスに直結するトピックを分かりやすく解説します。皆様のご参加をお待ちしています。

日時：2009年9月28日
14：00～16：30
場所：ウエルシティ鳥取 砂丘の間
主催：ジェットロ鳥取
参加費：無料
申込締切：9月18日
申込、問合せ：
ジェットロ鳥取（担当：蒲田）
TEL 0857-52-4335



編集後記

今年10月末、鳥取県は、世界経済の中心であり情報発信力のある米国ニューヨークにおいて、鳥取県産の美味しく、安心・安全で魅力ある食品をPRし、県内企業へ販路開拓のチャンスを提供することで打って出る「食のみやこ鳥取県」を推進する企画をしています。

米国では現在“空前の日本食ブーム”と言われており、1万軒近くの日本食レストランが存在するようですが、このように脚光を浴びる日本食の先駆けとなったのはもちろんSUSHI(寿司)で、現在でも米国人が最も好きな日本食とされていることから、その人気の健在ぶりが伺えます。そのため、日本食材の中でも、米、海苔、醤油、わさび、鮮魚、緑茶など寿司関連の商品が、よく売れているそうです。

ちなみに米国では、握りよりも巻物が人気で、カリフォルニアロールのように海苔が内側、シャリが外側にあるものが好まれているそうです。【r】

『とっとり・グローバルウォッチ』では、皆様から、内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。メールでお気軽にお寄せください。また、受信希望（無料）の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ：（財）鳥取県産業振興機構企業支援部
海外支援グループ（担当：早川）
E-mail：kaigai@toriton.or.jp
TEL：0857-52-6703 FAX：0857-52-6782

とっとり貿易支援センター 貿易に関する相談はこちらの窓口へ

【東部窓口】

- （財）鳥取県産業振興機構企業支援部
海外支援グループ
TEL 0857-52-6703
- ジェットロ鳥取貿易情報センター
TEL 0857-52-4335

【西部窓口】

- 樹さかいみなと貿易センター
TEL 0859-47-3900
- 境港貿易振興会
TEL 0859-47-3905

【その他関係機関】

- 境港管理組合港湾管理委員会事務局
TEL 0859-42-3705
- ジェットロ貿易相談デスク
TEL 0859-45-2203